

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリツカクイカクシヨウ オイタクイカク 国立大学法人 大分大学								
フリガナ大学の名称	オイトクイカクカクイカクシヨウ 大分大学大学院 (Graduate school of Oita University)								
大学本部の位置	大分県大分市大字且野原700番地								
大学の目的	本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本研究科では、「健康医科学」、「福祉社会科学」、「臨床心理学」のいずれかの分野の専門性を極めつつ、3領域にまたがる横断的教育を実践することで福祉健康科学の総合的な視野を養い、各専攻分野以外の課題やその解決方法も学ぶことで統合型の人材育成を行う。これにより、地域共生社会の概念を理解し、医療機関、福祉機関、行政機関、教育機関および民間企業等で多角的な方向からその実現を担うことができる専門家を輩出することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地	
	福祉健康科学研究科 [Graduate School of Welfare and Health Sciences]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	大分県大分市大字且 野原700番地	【基礎となる学部】 福祉健康科学部 福祉健康科学科
	福祉健康科学専攻 [Welfare and Health Sciences]	2	20	—	40	修士（健康医科学） 【Master of Health and Medical Sciences】  修士（福祉社会科学） 【Master of Social Service Administration】  修士（心理学） 【Master of Psychology】	令和2年4月 第1年次		14条特例の実施
	計		20	—	40				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)	大学院教育学研究科 (専門職学位課程) 教職開発専攻 (10) (平成31年事前伺い) (修士課程) 学校教育専攻 (廃止) (△21) ※令和2年4月学生募集停止  大学院医学系研究科 (修士課程) 医科学専攻 (廃止) (△15) ※令和2年4月学生募集停止  大学院福祉社会科学研究科 (廃止) (修士課程) 福祉社会科学専攻 (△12) ※令和2年4月学生募集停止								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	福祉健康科学研究科	40科目	8科目	6科目	54科目	30単位				
教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新 設	福祉健康科学研究科 福祉健康科学専攻（修士課程）		43人 (43)	19人 (19)	3人 (3)	0人 (0)	65人 (65)	0人 (0)	15人 (15)	平成31年4月事 前伺い
	教育学研究科 教職開発専攻（専門職学位課程）		7 (8)	7 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	53 (53)	
分	計		50 (51)	26 (25)	5 (5)	0 (0)	81 (81)	0 (0)	68 (68)	
	既	経済学研究科 経済社会政策専攻（博士前期課程）		11 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	
地域経営政策専攻（博士前期課程）		10 (10)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	4 (4)		
組	地域経営専攻（博士後期課程）		13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
	医学系研究科 看護学専攻（修士課程）		9 (9)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	20 (20)	
織	医学専攻（博士課程）		49 (49)	36 (36)	35 (35)	0 (0)	120 (120)	0 (0)	9 (9)	
	工学研究科 工学専攻（博士前期課程）		40 (40)	33 (33)	4 (4)	0 (0)	77 (77)	0 (0)	6 (6)	
の	工学専攻（博士後期課程）		37 (37)	22 (22)	1 (1)	0 (0)	60 (60)	0 (0)	0 (0)	
	学術情報拠点		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
設	全学研究推進機構		2 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	産学官連携推進機構		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
概	COC+推進機構		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	国際教育研究推進機構		3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
要	福祉科学研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	高等教育開発センター		2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
分	アドミッションセンター		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	減災・復興デザイン教育研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
計	保健管理センター		1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	計		181 (181)	125 (125)	47 (47)	2 (2)	355 (355)	0 (0)	43 (43)	
合計		231 (232)	151 (150)	52 (52)	2 (2)	436 (436)	0 (0)	111 (111)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		305人 (305)		221人 (221)		526人 (526)			
	技術職員		977 (977)		327 (327)		1,304 (1,304)			
	図書館専門職員		5 (5)		0 (0)		5 (5)			
	その他の職員		24 (24)		51 (51)		75 (75)			
計		1,311 (1,311)		599 (599)		1,910 (1,910)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	151,443 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	151,443 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	91,269 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	91,269 m <sup>2</sup>					
	小 計	242,712 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	242,712 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	180,272 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	180,272 m <sup>2</sup>					
合 計	422,984 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	422,984 m <sup>2</sup>						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		114,886 m <sup>2</sup> (114,886 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	114,886 m <sup>2</sup> (114,886 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	76 室	164 室	364 室	20 室 (補助職員 0人)	3 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		福祉健康科学研究科 福祉健康科学専攻		65 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため、 大学全体の 数		
	福祉健康科学研究科	770,373 [195,319] (773,235 [196,519])	11,473 [4,203] (11,473 [4,203])	20,505 [20,505] (20,505 [20,505])	3,463 (3,363)	642 (642)	0 (0)			
	計	770,373 [195,319] (773,235 [196,519])	11,473 [4,203] (11,473 [4,203])	20,505 [20,505] (20,505 [20,505])	3,463 (3,363)	642 (642)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		7,631 m <sup>2</sup>	940		605,333					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5,056 m <sup>2</sup>	弓道場、テニスコート、プール、陸上競技場等							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金による）
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
		設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大分大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	教育学部	年	人	年次 人	人		倍		大分県大分市	
	学校教育教員養成課程	4	135	—	540	学士（教育）	1.06	平成28年度	大字旦野原700番地	
	教育福祉科学部									
	学校教育課程	4	—	—	—	学士（教育）	—	平成11年度	平成28年度より 学生募集停止	
	情報社会文化課程	4	—	—	—	学士（教養）	—	平成元年度	平成28年度より 学生募集停止	
	人間福祉科学課程	4	—	—	—	学士（教養）	—	平成9年度	平成28年度より 学生募集停止	
	経済学部						1.03		同上	
	経済学科	4	90	—	400	学士（経済学）	—	平成6年度	平成29年度入学 定員減（△40人）	
経営システム学科	4	80	—	370	学士（経済学）	—	平成6年度	平成29年度入学 定員減（△50人）		
地域システム学科	4	80	—	285	学士（経済学）	—	平成6年度	平成29年度入学 定員増（35人）		
社会イノベーション 学科	4	40	—	120	学士（経済学）	—	平成29年度			

既設大学等の状況	各学科共通			3年次	10	20								
	医学部											大分県由布市 挾間町医大ケ丘		
	医学科	6	100	2年次	10	650	学士（医学）	1.00	昭和51年度			1丁目1番地		
	看護学科	4	60	3年次	6	252	学士（看護学）	1.04	平成6年度					
	理工学部											大分県大分市大字		
	創生工学科	4	235	3年次	7	712	学士（工学）	1.05	平成29年度			且野原700番地		
	共創理工学科	4	150	3年次	3	453	学士（理工学）	1.04	平成29年度					
	工学部													
	機械・エネルギーシステム工学科	4	—	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度				平成29年度より 学生募集停止	
	電気電子工学科	4	—	—	—	—	学士（工学）	—	平成3年度				平成29年度より 学生募集停止	
	知能情報システム工学科	4	—	—	—	—	学士（工学）	—	平成3年度				平成29年度より 学生募集停止	
	応用化学科	4	—	—	—	—	学士（工学）	—	平成4年度				平成29年度より 学生募集停止	
	福祉環境工学科	4	—	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度				平成29年度より 学生募集停止	
	各学科共通													
	福祉健康科学部													
	福祉健康科学科	4	100	—	—	400	学士（福祉健康科学）	1.05	平成28年度			同上		
	大学院教育学研究科 （修士課程）													
	学校教育専攻	2	21	—	—	42	修士（教育学）	0.73	平成4年度					令和2年度より 学生募集停止
	（専門職学位課程） 教職開発専攻	2	10	—	—	20	教職修士（専門職）	0.80	平成28年度					
	大学院経済学研究科 （博士前期課程）													
	経済社会政策専攻	2	8	—	—	16	修士（経済学）	0.68	平成11年度			同上		
	地域経営政策専攻	2	12	—	—	24	修士（経済学） 修士（経営学）	0.70	平成11年度					
	（博士後期課程） 地域経営専攻	3	3	—	—	9	博士（経済学）	0.77	平成19年度					
	大学院医学系研究科 （修士課程）													
	医科学専攻	2	15	—	—	30	修士（医科学）	0.43	平成15年度			大分県由布市 挾間町医大ケ丘		令和2年度より 学生募集停止
	看護学専攻	2	10	—	—	20	修士（看護学）	0.40	平成10年度			1丁目1番地		
	（博士課程） 医学専攻	4	30	—	—	120	博士（医学）	0.68	平成20年度					
	大学院工学研究科 （博士前期課程）													
	工学専攻	2	135	—	—	270	修士（工学）	1.15	平成28年度			大分県大分市大字 且野原700番地		
	（博士後期課程） 工学専攻	3	8	—	—	24	博士（工学）	0.45	平成28年度					
物質生産工学専攻	3	—	—	—	—	博士（工学）	—	平成7年度					平成28年度より 学生募集停止	
環境工学専攻	3	—	—	—	—	博士（工学）	—	平成7年度					平成28年度より 学生募集停止	

大学院福祉社会科学研究科 (修士課程) 福祉社会科学専攻	2	12	—	24	修士(福祉社会科学)	0.70	平成14年度	同上	令和2年度より 学生募集停止
附属施設の概要	<p>(附属病院)          名称：医学部附属病院          目的：診療を通して医学の教育及び研究に資する。          所在地：大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地(挾間キャンパス)          設置年：昭和56年4月          規模等：土地102,242㎡,建物70,486㎡</p> <p>(附属学校)          名称：教育学部附属幼稚園          目的：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、次に掲げる任務を果たす。          (1) 教育学部における幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。          (2) 保育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の幼稚園との保育研究の協力及び保育研究の成果の交流を行うこと。          (3) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して研究実践し、情報を発信する。          所在地：大分市王子新町1-1(王子キャンパス)          設置年：昭和15年4月          規模等：土地9,171㎡,建物959㎡</p> <p>名称：教育学部附属小学校          目的：心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果たす。          (1) 教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。          (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。          (3) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して実践し、情報を発信する。          所在地：大分市王子新町1-1(王子キャンパス)          設置年：明治16年4月          規模等：土地23,437㎡,建物6,867㎡</p> <p>名称：教育学部附属中学校          目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果たす。          (1) 教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。          (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。          (3) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して実践し、情報を発信する。          所在地：大分市王子新町1-1(王子キャンパス)          設置年：昭和24年4月          規模等：土地27,338㎡,建物6,950㎡</p> <p>名称：教育学部附属特別支援学校          目的：知的障害者に対して、小学校・中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、併せて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、次に掲げる任務を果たす。          (1) 教育学部における児童・生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。          (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。          (3) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、教育上特別の支援を必要とする児童、生徒又は幼児の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めること。          (4) 地域の先進的・先導的なモデル校として、地域の教育委員会等と連携して実践し、情報を発信する。          所在地：大分市王子新町1-1(王子キャンパス)          設置年：平成19年4月(附属養護学校を改称)          規模等：土地13,984㎡,建物3,963㎡</p>								

<p>附属施設の概要</p>	<p>(学内共同教育研究施設等)  <b>名称:</b> 学術情報拠点  <b>目的:</b> 全学的な学術情報基盤の基幹組織として学術情報の整備・充実とその高度化に努め、図書、学術雑誌その他必要な資料と情報システム及び情報ネットワークを本学の教職員及び学生の利用に供することにより教育・研究の進展を図るとともに、地域社会への学術情報の提供と公開及び情報化支援などを通じて社会との連携の推進に資する。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成20年4月 (附属図書館と総合情報処理センターを統合)  <b>規模等:</b> 建物451㎡</p> <p><b>名称:</b> 全学研究推進機構  <b>目的:</b> 基盤研究の支援及び重点研究の推進を図るため研究プロジェクトの創生及び支援体制の整備並びに大学院生等の人材育成に資する。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成21年10月  (総合科学研究支援センターと先端医工学研究センターを統合)  <b>規模等:</b> 建物4,121㎡</p> <p><b>名称:</b> 産学官連携推進機構  <b>目的:</b> 教育、研究及び医療の成果を社会に還元し、社会との連携と共存を図り、その発展に貢献することを目指して、円滑な産学官連携を推進する。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成23年4月 (イノベーション機構を改組)  <b>規模等:</b> 建物2,590㎡</p> <p><b>名称:</b> COC+推進機構  <b>目的:</b> 地(知)の拠点の整備事業を総括し、地域を志向した教育、研究及び社会貢献を行う。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成28年1月  <b>規模等:</b> 65㎡</p> <p><b>名称:</b> 国際教育研究推進機構  <b>目的:</b> 本学が得意とする国際的に評価の高い医学・医療領域におけるネットワークと、培ってきた研究力・医療技術をさらに広く海外に展開していくための組織づくりを目指し、これまで双方向性の留学支援を行ってきた「国際教育研究センター」と共に国際的な学術連携支援・人材育成や地域国際化支援などを大学全体としておこなう組織の再構築を行い、国内共同利用、共同研究拠点への展開を目指す。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成30年4月 (国際教育研究センターを改組)  <b>規模等:</b> 建物215㎡</p> <p><b>名称:</b> 福祉科学研究センター  <b>目的:</b> 学内及び学外の関係機関と連携を図り、福祉科学に関する理論的な深化・発展をめざす調査・研究を行うとともに、実践的な人材養成を支援するための諸活動を行い、地域社会の福祉の増進に寄与する。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成10年4月  <b>規模等:</b> 建物55㎡</p> <p><b>名称:</b> 高等教育開発センター  <b>目的:</b> 学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与する。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成17年4月 (大学教育開発支援センターを改組)  <b>規模等:</b> 建物146㎡</p> <p><b>名称:</b> アドミッションセンター  <b>目的:</b> 卒業認定・学位授与の方針及び教育課程・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、入学志願者を拡大し、優れた入学者を選抜確保するため、入学者選抜全般について企画及び実施することを目的とする。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成30年4月 (入学企画支援センターを改組)  <b>規模等:</b> 建物57㎡</p> <p><b>名称:</b> 減災・復興デザイン教育研究センター  <b>目的:</b> 防災、減災及び復興デザインに関する調査、教育及び研究の成果を地域社会に還元し、もって地域の安全・安心社会づくりに寄与することを目的とする。  <b>所在地:</b> 大分県大分市大字旦野原700番地 (旦野原キャンパス)  <b>設置年:</b> 平成30年1月  <b>規模等:</b> 建物36㎡</p>	
----------------	---	--

	<p>名称：保健管理センター 目的：大分大学の保健に関する専門的業務と研究を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康保持増進を図る。 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス） 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地（挾間キャンパス） 設置年：昭和49年4月 規模等：建物804㎡</p>	
--	--	--

国立大学法人大分大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>大分大学</b>				<b>大分大学</b>				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	135	-	540	学校教育教員養成課程	135	-	540	
経済学部				経済学部				
経済学科	90	-	360	経済学科	90	-	360	
経営システム学科	80	-	320	経営システム学科	80	-	320	
地域システム学科	80	-	320	地域システム学科	80	-	320	
社会イノベーション学科	40	-	160	社会イノベーション学科	40	-	160	
各学科共通	-	10	20	各学科共通	-	10	20	
医学部				医学部				
医学科	90	10	590	医学科	90	10	590	
看護学科	60	6	252	看護学科	60	6	252	
理工学部				理工学部				
創生工学科	235	7	954	創生工学科	235	7	954	
共創理工学科	150	3	606	共創理工学科	150	3	606	
福祉健康科学部				福祉健康科学部				
福祉健康科学科	100	-	400	福祉健康科学科	100	-	400	
計	1,060	10	4,522	計	1,060	10	4,522	
		3年次	26			3年次	26	

大分大学大学院	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	大分大学大学院	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>大分大学大学院</b>				<b>大分大学大学院</b>				
大学院教育学研究科				大学院教育学研究科				
学校教育専攻(修士課程)	21	-	42	学校教育専攻(修士課程)	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
教職開発専攻(専門職学位課程)	10	-	20	教職開発専攻(専門職学位課程)	20	-	40	研究科の専攻の設置(事前伺い)
大学院経済学研究科				大学院経済学研究科				
経済社会政策専攻(博士前期課程)	8	-	16	経済社会政策専攻(博士前期課程)	8	-	16	
地域経営政策専攻(博士前期課程)	12	-	24	地域経営政策専攻(博士前期課程)	12	-	24	
地域経営専攻(博士後期課程)	3	-	9	地域経営専攻(博士後期課程)	3	-	9	
大学院医学系研究科				大学院医学系研究科				
医科学専攻(修士課程)	15	-	30	医科学専攻(修士課程)	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
看護学専攻(修士課程)	10	-	20	看護学専攻(修士課程)	10	-	20	
医学専攻(博士課程)	30	-	120	医学専攻(博士課程)	30	-	120	
大学院工学研究科				大学院工学研究科				
工学専攻(博士前期課程)	135	-	270	工学専攻(博士前期課程)	135	-	270	
工学専攻(博士後期課程)	8	-	24	工学専攻(博士後期課程)	8	-	24	
大学院福祉社会科学研究科				大学院福祉社会科学研究科				
福祉社会科学専攻(修士課程)	12	-	24	福祉社会科学専攻(修士課程)	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
計	264	0	599	計	246	0	563	



教育課程等の概要																
(福祉健康科学研究科 福祉健康科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	福祉健康科学特論Ⅰ	1前	2			○			3	1					オムニバス	
	福祉健康科学特論Ⅱ	1後	2			○			2	2					オムニバス	
	地域医療健康増進科学特論	1・2後		2		○			4						オムニバス	
	地域福祉特論	1・2前		2		○				1						
	家族・コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2後		2		○				1						
	小計（5科目）	—	—	4	6	0	—	—	9	2	0	0	0	0	0	
発展科目	医療関連科目群															
	健康医科学特論	1・2前		2		○			3	2					オムニバス	
	高齢者疾患特論	1・2後		2		○			3						オムニバス	
	病態医科学特論	1・2前		2		○			10	4					オムニバス	
	病態治療学特論	1・2前		2		○			13	2					オムニバス	
	運動器系機能病態解析学特論	1・2後		2		○			3	1					オムニバス	
	神経系機能病態解析学特論	1・2後		2		○			3		1				オムニバス	
	医療工学特論	1・2後		2		○			4	1					オムニバス	
	公衆衛生学特論	1・2前		2		○			2						オムニバス 共同(一部)	
	臨床実践演習	1後		2			○		1	2	1				オムニバス 共同(一部)	
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2後		2		○									兼1		
小計（10科目）	—	—	0	20	0	—	—	37	10	1	0	0	0	兼1		
福祉関連科目群	福祉社会科学課題演習	1前		2			○		1	1					共同	
	社会福祉原理論	1前		2		○				1						
	社会保障政策特論	2後		2		○				1						
	福祉政策特論	1・2後		2		○									兼1	
	高齢者福祉特論	1・2後		2		○									兼1	
	児童・家庭福祉特論	1・2前		2		○			1							
	障害者福祉特論	2後		2		○				1						
	生活困窮者支援特論	1・2前		2		○				1						
	医療福祉特論	1・2後		2		○			1							
	福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○				1						
小計（10科目）	—	—	0	20	0	—	—	2	4	0	0	0	0	兼2		
心理関連科目群	心理学研究法特論	1・2前		2		○				2					オムニバス	
	臨床心理学研究法特論	1・2後		2		○			2	1					オムニバス	
	障害児・者心理学特論	1・2前		2		○				1	1				共同	
	神経生理心理学特論	1・2後		2		○				1						
	臨床発達心理学特論	1・2後		2		○				1						
	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1・2前		2		○									兼1	
	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○									兼1	
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2後		2		○			1							
	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○					1					
	生涯発達心理学特論	1・2後		2		○										兼1
	教育心理学特論	1・2後		2		○										兼1
	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2		○			2	1					オムニバス	
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○				2	1				オムニバス	
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1前		2		○			1		1				オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		○			1						兼2 共同 兼6 共同 兼5 共同 共同・集中 共同・集中 兼5 共同 共同 兼1 共同 オムニバス 兼12
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）	1前		2			○			1					
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	臨床心理基礎実習	1通		2				○		1	1				
	臨床心理展開実習（心理実践実習A）	1通		2				○	2	3	1				
	臨床心理応用実習A（心理実践実習B）	1通		3				○	2	3	2				
	臨床心理応用実習B（心理実践実習C）	2通		2				○	2	3	2				
	臨床心理実習A（心理実践実習D）	2通		2				○	2	3	1				
	臨床心理実習B	2通		2				○	2	3	1				
	臨床動作法特論	1・2前		2		○					1				
保護者支援特論	1・2前		2		○			1	1						
小計（25科目）	—	0	51	0	—	—	—	2	5	2	0	0	兼12		
研究 展開 科目	福祉健康科学特別演習Ⅰ	1通	2				○		43	19	3				
	福祉健康科学特別演習Ⅱ	2通	2				○		43	19	3				
	福祉健康科学特別研究Ⅰ	1通	4				○		43	19	3				
	福祉健康科学特別研究Ⅱ	2通	4				○		43	19	3				
小計（4科目）	—	12	0	0	—	—	—	43	19	3	0	0	0		
合計（54科目）		—	16	97	0	—	—	—	43	19	3	0	0	兼15	
学位又は称号	修士（健康医科学）， 修士（福祉社会科学）， 修士（心理学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係），社会学・社会福祉学関係，文学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>基礎科目6単位以上（うち必修4単位，選択2単位を含む），発展科目12単位以上及び研究展開科目12単位，合計30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査および最終試験に合格すること。</p> <p>なお，発展科目12単位以上については，以下のとおり履修すること。</p> <p>○健康医科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連科目群から8単位以上</li> <li>福祉関連科目群</li> <li>社会福祉原理論</li> <li>福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> <p>} 2単位以上</p> <p>○心理関連科目群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）</li> <li>生涯発達心理学特論</li> </ul> <p>} 2単位以上</p> <p>○福祉社会科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉関連科目群から8単位以上</li> <li>医療関連科目群</li> <li>高齢者疾患特論</li> <li>精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> <p>} 2単位以上</p> <p>○臨床心理学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心理関連科目群から8単位以上</li> <li>医療関連科目群</li> <li>高齢者疾患特論</li> <li>精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）</li> <li>福祉関連科目群のうち</li> <li>社会福祉原理論</li> <li>福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> <p>} 2単位以上</p>								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教育課程等の概要														
(福祉健康科学研究科 福祉健康科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	福祉健康科学特論Ⅰ	1前	2			○			3	1				オムニバス
	福祉健康科学特論Ⅱ	1後	2			○			2	2				オムニバス
	地域医療健康増進科学特論	1・2後		2		○			2					オムニバス
	地域福祉特論	1・2前		2		○				1				
	家族・コミュニティ心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1・2後		2		○				1				
	小計(5科目)	—	4	6	0	—	—	—	7	2	0	0	0	0
発展科目 医療関連科目群	健康医科学特論	1・2前		2		○			1	1				オムニバス
	高齢者疾患特論	1・2後		2		○			3					オムニバス
	病態医科学特論	1・2前		2		○			1					オムニバス
	病態治療学特論	1・2前		2		○			2					オムニバス
	運動器系機能病態解析学特論	1・2後		2		○			2	1				オムニバス
	神経系機能病態解析学特論	1・2後		2		○					1			オムニバス
	臨床実践演習	1後		2			○		1	1	1			オムニバス 共同(一部)
	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1・2後		2		○								兼1
小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	5	2	1	0	0	兼1	
福祉関連科目群	福祉社会科学課題演習	1前		2			○		1	1				共同
	社会福祉原理論	1前		2		○				1				
	社会保障政策特論	2後		2		○				1				
	福祉政策特論	1・2後		2		○								兼1 集中
	高齢者福祉特論	1・2後		2		○								兼1 集中
	児童・家庭福祉特論	1・2前		2		○			1					
	障害者福祉特論	2後		2		○				1				
	生活困窮者支援特論	1・2前		2		○				1				
	医療福祉特論	1・2後		2		○			1					
	福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2前		2		○				1				
小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	4	0	0	0	兼2	
心理関連科目群	心理学研究法特論	1・2前		2		○				2				オムニバス
	臨床心理学研究法特論	1・2後		2		○			2	1				オムニバス
	障害児・者心理学特論	1・2前		2		○				1	1			共同
	神経生理心理学特論	1・2後		2		○				1				
	臨床発達心理学特論	1・2後		2		○				1				
	健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)	1・2前		2		○								兼1 集中・隔年
	司法・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1・2前		2		○								兼1 集中・隔年
	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	1・2後		2		○			1					
	産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1・2前		2		○					1			
	生涯発達心理学特論	1・2後		2		○								兼1 集中・隔年
	教育心理学特論	1・2後		2		○								兼1 集中・隔年
	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2		○			2	1				オムニバス
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○				2	1			オムニバス
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1前		2		○			1		1			オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		○			1						兼2 共同 兼6 共同 兼5 共同 共同・集中 共同・集中 兼5 共同 共同 兼1 共同 オムニバス 兼12
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）	1前		2			○			1					
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	臨床心理基礎実習	1通		2				○		1	1				
	臨床心理展開実習（心理実践実習A）	1通		2				○	2	3	1				
	臨床心理応用実習A（心理実践実習B）	1通		3				○	2	3	2				
	臨床心理応用実習B（心理実践実習C）	2通		2				○	2	3	2				
	臨床心理実習A（心理実践実習D）	2通		2				○	2	3	1				
	臨床心理実習B	2通		2				○	2	3	1				
	臨床動作法特論	1・2前		2		○					1				
保護者支援特論	1・2前		2		○			1	1						
小計（25科目）	—	0	51	0	—	—	—	2	5	2	0	0	兼12		
研究展開科目	福祉健康科学特別演習Ⅰ	1通	2				○		9	11	3				
	福祉健康科学特別演習Ⅱ	2通	2				○		9	11	3				
	福祉健康科学特別研究Ⅰ	1通	4				○		9	11	3				
	福祉健康科学特別研究Ⅱ	2通	4				○		9	11	3				
小計（4科目）	—	12	0	0	—	—	—	9	11	3	0	0	0		
合計（52科目）		—	16	93	0	—	—	—	9	11	3	0	0	兼15	
学位又は称号	修士（健康医科学）， 修士（福祉社会科学）， 修士（心理学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係），社会学・社会福祉学関係，文学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>基礎科目6単位以上（うち必修4単位，選択2単位を含む），発展科目12単位以上及び研究展開科目12単位，合計30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査および最終試験に合格すること。</p> <p>なお，発展科目12単位以上については，以下のとおり履修すること。</p> <p>○健康医科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連科目群から8単位以上</li> <li>福祉関連科目群           <ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉原理論</li> <li>福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> </li> <li>心理関連科目群           <ul style="list-style-type: none"> <li>健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）</li> <li>生涯発達心理学特論</li> </ul> </li> </ul> <p>を修得すること。</p> <p>○福祉社会科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉関連科目群から8単位以上</li> <li>医療関連科目群           <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者疾患特論</li> <li>精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> </li> <li>心理関連科目群           <ul style="list-style-type: none"> <li>健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）</li> <li>生涯発達心理学特論</li> </ul> </li> </ul> <p>を修得すること。</p> <p>○臨床心理学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心理関連科目群から8単位以上</li> <li>医療関連科目群           <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者疾患特論</li> <li>精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> </li> <li>福祉関連科目群のうち           <ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉原理論</li> <li>福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）</li> </ul> </li> </ul> <p>を修得すること。</p>								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(福祉健康科学研究科 福祉健康科学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 科目	地域医療健康増進科学特論	1・2後		2		○			2						オムニバス
	小計 (1科目)	—	0	2	0	—			2	0	0	0	0	0	
発展 科目	健康医科学特論	1・2前		2		○			2	1					オムニバス
	病態医科学特論	1・2前		2		○			9	4					オムニバス
	病態治療学特論	1・2前		2		○			11	2					オムニバス
	運動器系機能病態解析学特論	1・2後		2		○			1						オムニバス
	神経系機能病態解析学特論	1・2後		2		○			3						オムニバス
	医療工学特論	1・2後		2		○			4	1					オムニバス
	公衆衛生学特論	1・2前		2		○			2						オムニバス 共同(一部)
	臨床実践演習	1後		2			○			1					オムニバス 共同(一部)
小計 (8科目)	—	0	16	0	—			32	8	0	0	0	0		
研究 展開 科目	福祉健康科学特別演習Ⅰ	1通	2				○		34	8					
	福祉健康科学特別演習Ⅱ	2通	2				○		34	8					
	福祉健康科学特別研究Ⅰ	1通	4				○		34	8					
	福祉健康科学特別研究Ⅱ	2通	4				○		34	8					
小計 (4科目)	—	12	0	0	—			34	8	0	0	0	0		
合計 (13科目)		—	12	18	0	—			34	8	0	0	0	0	
学位又は称号		修士 (健康医科学), 修士 (福祉社会科学), 修士 (心理学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係), 社会学・社会福祉学関係, 文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>基礎科目6単位以上 (うち必修4単位, 選択2単位を含む), 発展科目12単位以上及び研究展開科目12単位, 合計30単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査および最終試験に合格すること。</p> <p>なお, 発展科目12単位以上については, 以下のとおり履修すること。</p> <p>○健康医科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連科目群から8単位以上</li> <li>福祉関連科目群</li> <li>社会福祉原理論</li> <li>福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)</li> </ul> <p>} 2単位以上</p> <p>○心理関連科目群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)</li> <li>生涯発達心理学特論</li> </ul> <p>を修得すること。 } 2単位以上</p> <p>○福祉社会科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉関連科目群から8単位以上</li> <li>医療関連科目群</li> <li>高齢者疾患特論</li> <li>精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)</li> </ul> <p>} 2単位以上</p> <p>○臨床心理学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心理関連科目群から8単位以上</li> <li>医療関連科目群</li> <li>高齢者疾患特論</li> <li>精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)</li> <li>福祉関連科目群のうち</li> <li>社会福祉原理論</li> <li>福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)</li> </ul> <p>を修得すること。 } 2単位以上</p>								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(福祉健康科学研究科 福祉健康科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	福祉健康科学特論Ⅰ	<p>本研究科の目的は「地域共生社会の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うことができるバイオニア」を養成することである。そのためには、まず、「福祉健康科学」や「地域共生社会」の概念を確実に理解するとともに、関連する取組の実際を具体的に理解しておく必要がある。この科目では、二年間の学修を始めるにあたり、まず「福祉健康科学」や「地域共生社会」について深く学び、それをもって今後の学修の基礎とすることをねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 相澤 仁/6回) 地域共生社会について詳述する。</p> <p>(③ 片岡 晶志/3回) 福祉健康科学について詳述する。</p> <p>(④ 上白木 悦子/3回) 地域共生社会の実現に向けた複合的問題の対応について詳述する。</p> <p>(⑨ 川村 岳人/3回) 地域共生社会について詳述する。</p>	オムニバス方式
	福祉健康科学特論Ⅱ	<p>福祉健康科学特論Ⅰで得た「福祉健康科学」と「地域共生社会」に関する理解に基づき、健康医科学、社会福祉科学、臨床心理学の専門的な視点や技法がいかに「地域共生社会」の実現に役立つのか、具体的な取組事例（個の支援および地域・コミュニティ支援）にも触れながら深く学ぶ。また、それらの視点を結節させ、連携と協働のもとに、「地域共生社会」を牽引する方策あるいは資質・能力について考究する。これにより、医療、福祉、心理を俯瞰し、多角的・総合的な支援を実践できる知識と技術の伸長を進める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 河上 敬介/4回) 地域共生社会における健康医科学について詳述する。</p> <p>(⑦ 渡邊 亘/3回) 地域共生社会の実現に向けた必要な資質能力について詳述する。</p> <p>(⑧ 飯田 法子/4回) 地域共生社会における臨床心理学について詳述する。</p> <p>(⑨ 川村 岳人/4回) 地域共生社会における福祉社会科学について詳述する。</p>	オムニバス方式
	地域医療健康増進科学特論	<p>本科目のうち、地域医療の分野では、現在行われている地域医療についてがん患者の事例を中心に学修する。健康増進分野では事例や先行研究の検証を通じて、健康増進に関する課題と問題解決の方法を学修する。以上を通して、地域医療や健康増進に関する研究を遂行するために必要な理論および実践的な方法論を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 朝井 政治/6回) 地域における健康増進と介護予防事業について詳述する。</p> <p>(⑥ 兒玉 雅明/4回) 地域における医療問題について詳述する。</p> <p>(22 白石 憲男/2回) 地域完結型外科医療について詳述する。</p> <p>(39 宮崎 英士/3回) 地域・在宅医療学等について詳述する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎科目	地域福祉特論	近年、経済構造の変化によって社会的な課題を解決する「空間的単位」が小さくなり、社会的孤立や社会的排除など福祉問題の多くが地域ごとにローカルに読み解く必要が高まっている。この授業のねらいは、こうした地域で生じている福祉問題を構造的に理解するとともに、複合的なニーズを抱える人々を地域でいかに支援していくか、また、そうした人々を支えるためには地域にどのように働きかけているのかを考えることである。		
	家族・コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	心理臨床の現場では、クライアントへの個別的支援だけでなく「家族・集団・地域社会」全体を支援するコミュニティの視点も求められる。本授業では、家族関係に関する支援（家族療法を含む）、集団に関する支援について学んだ後、医療や福祉をはじめとする多職種との協働と総合的支援の展開について実践的に学ぶ。		
発展科目	医療関連科目群	健康医科学特論	<p>病者に対する安全で適切な医療や科学的に健全な生命科学研究を実施する臨床家やその研究者を育成するためには、正常な人体の構造や機能を理解することが不可欠である。これらの理解のためには解剖学、生化学、生理学などの基礎医学の理解が必要である。基礎医学の基礎から研究の最前線までを俯瞰して、深く学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(30 徳丸 治/3回) 宇宙医学について詳述する。</p> <p>(32 花田 俊勝/3回) 分子細胞生物学について詳述する。</p> <p>(34 濱田 文彦/3回) 分子解剖学研究について詳述する。</p> <p>(52 紀 端成/3回) リンパ学について詳述する。</p> <p>(57 松尾 哲孝/3回) マトリックス医学について詳述する。</p>	オムニバス方式
		高齢者疾患特論	<p>高齢者では生理的加齢変化とさまざまな疾患が相乗することにより、機能障害がもたらされる。このため高齢者医療を考える際に、老化と老年病に関する総合的な知識が不可欠である。特に後期高齢者においてその傾向が著しく、個別の疾患や障害の診断や評価はもちろんのこと、それらを総合して患者の全体像を的確に把握する能力が要求される。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 朝井 政治/5回) 呼吸系、心大血管系、代謝系の疾患について詳述する。</p> <p>(③ 片岡 晶志/5回) 運動器系の疾患について詳述する。</p> <p>(⑥ 兒玉 雅明/5回) 消化器系、免疫系の疾患について詳述する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 医療関連 連科目群	病態医科学特論	<p>           主要な疾患の理解には、その病因、病態を深く学ぶことが不可欠である。基礎医学の知識を基にした各種疾患における病理学、病理組織学を学ぶとともに、炎症、腫瘍、循環等の病態生理学への理解を深める。また病態治療に用いるために不可欠な薬理学のメカニズムを身につけ、疾患への深い理解へ結びつけることを目的とする。         </p> <p>           (オムニバス方式/全15回)         </p> <p>           (4 石崎 敏理/1回)            薬理学について詳述する。         </p> <p>           (5 伊東 弘樹/1回)            薬物動態学について詳述する。         </p> <p>           (8 今井 浩光/1回)            医療倫理学について詳述する。         </p> <p>           (9 上村 尚人/1回)            臨床薬理学について詳述する。         </p> <p>           (10 小野 克重/1回)            病態生理学について詳述する。         </p> <p>           (⑥ 兒玉 雅明/2回)            病理組織学について詳述する。         </p> <p>           (18 小林 隆志/1回)            免疫学について詳述する。         </p> <p>           (25 駄阿 勉/1回)            病理学について詳述する。         </p> <p>           (26 高橋 尚彦/1回)            循環器系病態学について詳述する。         </p> <p>           (37 松浦 恵子/1回)            医学生物学について詳述する。         </p> <p>           (46 伊波 英克/1回)            微生物学について詳述する。         </p> <p>           (51 下田 恵/1回)            生物化学について詳述する。         </p> <p>           (54 泥谷 直樹/1回)            病態学について詳述する。         </p> <p>           (55 廣中 秀一/1回)            臨床腫瘍学について詳述する。         </p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 医療関連科目群	病態治療学特論	<p>健康医科学においては、多くの愁訴、疾患を抱えた人々への理解が必要不可欠である。また各種病態の診断、治療は刻々と変化しており、表面的なものでなく病態の深い理解、また最新の診断学、治療法を身につけねばならない。本科目では、幅広い疾患においてその発生機序、病態生理を学ぶことにより、より深い疾患の理解を得る。また、病態に基づいた最新の診断、治療法について具体的な症例を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 井原 健二/1回) 小児科学領域について詳述する。</p> <p>(③ 片岡 晶志/1回) リハビリテーション医学領域について詳述する。</p> <p>(14 河野 憲司/1回) 歯科口腔外科領域について詳述する。</p> <p>(15 北野 敬明/1回) 周術期管理医学領域について詳述する。</p> <p>(16 久保田 敏昭/1回) 視機能領域について詳述する。</p> <p>(⑥ 兒玉 雅明/1回) 膵・胆道領域について詳述する。</p> <p>(20 重光 修/1回) 救命救急医学領域について詳述する。</p> <p>(21 柴田 洋孝/1回) 内分泌領域について詳述する。</p> <p>(23 杉尾 賢二/1回) 呼吸器領域について詳述する。</p> <p>(24 鈴木 正志/1回) 頭頸部領域について詳述する。</p> <p>(35 平松 和史/1回) 医療安全管理領域について詳述する。</p> <p>(38 三股 浩光/1回) 腎尿路生殖器領域について詳述する。</p> <p>(41 村上 和成/1回) 消化器領域について詳述する。</p> <p>(47 加来 信広/1回) 整形外科学領域について詳述する。</p> <p>(49 河野 康志/1回) 生殖器領域について詳述する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 医療関連 連科目群	運動器系機能病態解析学特論	<p>筋、神経、関節などの運動器系は理学療法の対象となることが多い。また運動器系の病態に関して、その発症要因や治療法について詳細に理解するためには、分子の役割から病態のメカニズムまで深く理解する必要がある。本講義では、運動器系の機能や病態に関して分子メカニズムから詳細に理解し、運動器系の病態に対する治療とそのメカニズムに関して最新の知見を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3) 片岡 晶志／4回 骨・関節における病態について詳述する。</p> <p>(5) 河上 敬介／4回 筋病態について詳述する。</p> <p>(28) 谷川 雅人／4回 メカノバイオロジーや生物物理化学について詳述する。</p> <p>(44) 阿南 雅也／3回 変形性膝関節症の病態運動学について詳述する。</p>	オムニバス方式
	神経系機能病態解析学特論	<p>神経機能は運動や感覚、コミュニケーションや記憶・学習など、ヒトが社会において適応的な行動を生み出すための重要な組織である。そして、この神経機能が障害されると、ヒトが生活を営むための機能の喪失、すなわち生活の質の低下に直結する。そのため、神経機能の病態をマイクロ～マクロレベルで理解することが、神経疾患患者の社会復帰を促進する上で必要不可欠となる。本講義では、脳をはじめとする神経機能の詳細な理解と解析手法を学ぶことで、神経機能病態を詳細に理解する手法を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(29) 寺尾 岳／4回 機能性精神病の病態について詳述する。</p> <p>(33) 花田 礼子／4回 分子神経科学について詳述する。</p> <p>(36) 藤木 稔／4回 脳虚血・神経外傷について詳述する。</p> <p>(65) 菅田 陽恰／3回 神経科学を基盤とした理学療法について詳述する。</p>	オムニバス方式
	医療工学特論	<p>医療福祉機器の開発や地域産業の活性化を目的に、大学と企業の産学官連携や、医療と工学の医工連携による新しい技術や製品の開発が進められている。本講義では、医療従事者として工学の専門的知識・技術を学び、医療と工学の連携による新しい技術の開発やそれによる地域医療の進歩について深く探究する。さらに、各分野における工学技術を取り入れた医療機器の治療・診断技術の特性、医工連携に関する開発研究について、導入事例を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3) 穴井 博文／3回 医工連携について詳述する。</p> <p>(6) 猪股 雅史／3回 内視鏡外科治療学について詳述する。</p> <p>(31) 波多野 豊／3回 創傷診断治療学について詳述する。</p> <p>(40) 宮本 伸二／3回 外科循環制御学について詳述する。</p> <p>(58) 松本 俊郎／3回 放射線診断学・低侵襲的治療(IVR、放射線の治療)について詳述する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	医療関連科目群	<p>公衆衛生学特論</p> <p>自然科学としての医学とその応用としての医療は、社会とのつながりの中で人々の役に立つ。現在の我が国は、超高齢社会やがん、メタボリック症候群などの問題に直面している。加えて、世界的には感染症や環境汚染等の未解決の問題が山積しており、その対策への我が国の貢献が期待されている。これらの問題を理解し解決するために必要な公衆衛生的な考え方の基礎を固めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 齊藤 功/7回) 公衆衛生学について詳述する。</p> <p>(42 山岡 吉生/7回) 公衆衛生学について詳述する。</p> <p>(19 齊藤 功・42 山岡 吉生/1回) (共同) 公衆衛生学について詳述する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	臨床実践演習	<p>主として臨床での経験が浅い医療従事者を対象として、それぞれの職種に求められる基本的なクリニカルリーディングとスキルについて代表的な症例を通して身につける。さらに医療・地域で関わる他職種との連携について学修することを目的とする。特に、病態の理解や各種検査結果の解釈を踏まえたアセスメント能力を高め、科学的根拠を念頭に置いた介入計画を立案できることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 朝井 政治/4回) 内部障害を有する症例について</p> <p>(44 阿南 雅也/4回) 運動器疾患及び虚弱高齢者について</p> <p>(47 加来 信広/2回) 運動器疾患について</p> <p>(65 菅田 陽怜/4回) 神経疾患について</p> <p>(44 阿南 雅也・65 菅田 陽怜/1回) (共同) 臨床実践における事例報告について</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	<p>本講義では「心の健康の維持」や「心の病気の予防」に関する内容もとり入れながら、「統合失調症」や「アルコール・薬物依存」「認知症」について概説する。また、現在問題となっている「うつ病と自殺」「発達障害」についても言及する。これにより、精神医学・精神医療の実践知を心理支援に統合させることを促す。</p>	
	福祉関連科目群	<p>福祉社会科学課題演習</p> <p>我が国の社会構造の変化に伴い、医療や生活支援が多様化・複雑化している。そのような「福祉」「医療」「心理」における課題を総合的に俯瞰し、ミクロ・メゾ・マクロのレベルの課題を科学的に分析する能力と課題解決能力を得ることを目的とする。本講義は、課題に対し受講生自ら問題点を見だし、討議を重ね解決していくPBL (Problem Based Learning) 方式にて行う。</p>	共同
	社会福祉原理論	<p>この講義は、社会福祉が実現すべき地域共生社会のありようについて明確なイメージを得ること及び、地域共生社会を実現するために、社会福祉の理論研究や歴史研究がいかなる課題を見出してきたのかを追究する。社会福祉は個人のウェルビーイングや地域課題の解消を目指す社会システムの1つであるが、それ自体が制度の狭間といった課題を生み出すという限界も合わせもって展開してきた。この講義ではその現実を直視し、その到達点と課題を理解したうえで今後のありようを具体的に議論するための基礎を提供することを旨とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	福祉関連科目群		
	社会保障政策特論	社会保障は私たちの生活の安定や安心を確保する上で重要な役割を担っているが、少子高齢化や家族のあり方の多様化などの社会経済状況の変化を背景として、さまざまな課題に直面している。講義では、文献の輪読、報告とディスカッションを通じて、福祉社会の構築を図るために不可欠な社会保障の専門知識を体系的に習得し、政策課題について自らの見解を示すことができるようになることを目指す。テーマとしては、医療保障(医療保険制度、医療提供体制等)、介護保障(介護保険と改革方策)、所得保障(年金制度、公的扶助等)、生活保障(社会保障と雇用の関係)を取り上げ、多角的に分析・考察を行う。さらに、比較の視点から諸外国の社会保障制度・政策について検討し、社会保障のあり方と問題解決策を検討する。	
	福祉政策特論	日本の福祉政策、あるいは福祉ニーズに対する現金給付・サービス給付という社会のシステムは、今日、どのような社会経済的環境のなかにあり、どのような課題に直面しているであろうか。この講義では、前半部分で、福祉政策を取り巻く今日的環境の把握を目指し、雇用・家族・福祉国家をめぐる政治経済学アプローチについて検討する。後半部分では、福祉政策が直面する今日的課題として、社会的排除／包摂の議論や実態を取り上げる。これらの検討を通して、日本の福祉政策の制度や国民生活をめぐる問題を、今日の社会経済や福祉資本主義のうねりの中に位置づけて把握する視点を養う。	集中
	高齢者福祉特論	認知症をもつ人の事例を中心に、ミクロ、メゾ、マクロでのケアの問題を紐解き、「よいケア」及び「地域包括ケア」のあり方について考えていく。さらに、介護と家族、高齢者のターミナルケアや尊厳死について議論する。	集中
	児童・家庭福祉特論	児童虐待、少年非行、DVなどの子どもや家庭の問題の現状と課題について取り上げ、その具体的な事例についてアセスメント・プランニングなどケアマネジメントを行い、子どもやその家庭、特に障害者や高齢者を含む多問題家族を対象にした包括的支援についてミクロ・メゾ・マクロの視点から基本的かつ実践的な知識や技術及び倫理について、さらには包括的な支援を展開する上で必要な事業など社会資源のあり方などについて演習を通して学ぶ。	
	障害者福祉特論	本講義は、障害者福祉をめぐるマクロレベル、メゾレベル、ミクロレベルにおける課題を検討し、その上で課題の緩和や課題に向けていかなる方策があるのかを検討する。政策（マクロ）に関しては、近年の障害者権利条約の影響を受けた日本の障害者政策の課題について取り上げる。メゾについては精神障害や知的障害者の脱施設化の問題を取り上げる。ミクロについては、発達障害やパーソナリティ障害をもつ人への支援のあり方について議論する。	
	生活困窮者支援特論	福祉課題や福祉ニーズに対処するためには、従前は分離して議論されがちであった<政策>もしくは<実践>のいずれかの領域の内に視野を留めるのではなく、法や予算などの政策（マクロ）、事業の計画・運営（メゾ）、個別的な支援実践（ミクロ）といったそれぞれの位相で複層的に捉えて検討する必要がある。 本講義では、生活困窮者等の生活支援システムの課題やあり方の検討をとおして、マクロ・メゾ・ミクロそれぞれの位相から総合的にアプローチする視点と、政策と実践の両面から具体的な課題を分析する能力を得ることを目的とする。	
	医療福祉特論	保健医療や医療ソーシャルワークにおける基本原則・理論や研究課題を理解することを目的とし、地域包括ケアシステムや緩和ケア・終末期医療等における医療ソーシャルワーカーの役割について学ぶ。講義では、医療ソーシャルワークに関する文献概要のレジュメや事例等に基づいた報告と討論を中心に講義を展開する。	
福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	本科目では、虐待、DV、障害者福祉、児童家庭福祉、高齢者福祉、地域福祉について概説しつつ、それぞれに関する心理学的な支援の実際について取り上げる。福祉領域における支援は多岐に渡るが、医療や教育といった関係領域との連携抜きに行うことはできないため、その点についても積極的に学びを展開する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 心理関連 科目群	心理学研究法特論	心理学研究における主要な研究法について詳述するとともに、その研究法に関する内外の学術論文を読解・討議することにより、研究を行う上で必要な専門知識と技能の習得を進める。  (オムニバス方式/全15回)  (41 村上 裕樹/8回) 分散分析、相関分析、生理学的指標を用いた研究について取り上げる。  (53 中里 直樹/7回) 因子分析、重回帰分析、パス解析について取り上げる。	オムニバス方式
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学における主要な研究法である質的研究法を取り上げ、その特徴と目的、理論と実施方法について詳述する。特に、面接法、グラウンディッド・セオリー・アプローチ、KJ法、複線径路・等至性モデル、事例研究法などについて、実際の研究論文を読み解きながら具体的に学ぶ。また、大学院生自身の研究計画にも敷衍させ、学位論文研究の実践につなげる。  (オムニバス方式/全15回)  (27 武内 珠美/5回) 臨床心理学分野における研究の全体像や近年の動向などについて概説したのち、面接法、グラウンディッド・セオリー・アプローチ、KJ法、複線径路・等至性モデルの理論について詳述する。  (⑦ 渡邊 亘/5回) 事例研究法について、その方法論としての特徴や独自性について概説したのち、具体的な進め方や論文執筆の方法について詳述する。  (60 溝口 剛/5回) 臨床心理学領域における質的研究法の理念や哲学、目的や意義について取り上げるとともに、具体的な研究の進め方について詳述する。	オムニバス方式
	障害児・者心理学特論	本授業では、医療・福祉・心理等の視点から発達障害児・者が抱える様々な困難を総合的に理解した上で、特に臨床心理学的な支援を実践するための方法について学ぶことを目的とする。また、支援方法として特に集団心理療法的アプローチについて学び、集団心理療法の基礎的理論及び、実際の支援方法について体験的に学び、理解を深める。	共同
	神経生理心理学特論	神経生理心理学の主要な領域・テーマに関する重要かつ先進的な知見を学ぶことを目的として、講義や文献の分析・討議を行う。具体的には、自律神経活動、免疫・内分泌系活動、脳画像に関して検討を深めたのち、脳損傷に関する神経生理心理学的知見について学ぶ。	
	臨床発達心理学特論	人のこころの発達、身体的発達、認知的発達、社会的発達などが相互に関連しながら、周囲とのかかわりの中で変化していく過程であり、様々な視点から発達理論が構築されている。臨床心理学的な諸問題に関して、発達過程という観点から見直すことは、周囲との関係性の中で個人のこころのあり様がどのように形成され、現在の問題につながっているのかを理解することにつながる。この授業では、人のこころの発達と精神病理について、理論家がどのように理論を構築してきたのか、そして、実際の事例の中で、それらの理論がどのように臨床心理学的理解と支援につながっているかを学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 心理関連 連科目群	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	心の健康問題と健康教育、ストレスマネジメントなどについて、健康心理学の今日的なトピックスも取り上げながら考える。心の健康の維持増進や、健康教育、ストレスの軽減や対処能力などに関する理論と実際について講義し、議論する。また、講義中でとりあげる心理的健康のテーマに関して、医療、福祉、心理の専門家がどのように協力して支援を展開していくことができるかについても考える。講義とグループ発表、討議などにより授業を進める。	集中隔年
	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	司法・矯正領域における諸問題は、少年非行の問題、児童虐待との関連、発達障害との関連、犯罪被害者支援の問題など広がりを見せている。また、これらの問題は心理だけでは解決せず、医療や福祉等をも視野に入れる必要があるため、司法・犯罪領域ではさまざまな関係機関との連携が求められる現状にある。本講義では、これら司法・犯罪領域において生じる問題及びその背景をふまえながら、司法・犯罪領域における心理社会的課題とその心理的支援のあり方について理解を深め、心理職としてのあり方を実践的に学ぶ。	集中隔年
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	学校等の教育領域において心理支援を実践するにあたり必要となる専門的な理論や支援技法を学ぶ。具体的には、教育現場の特徴および現状や課題を概観した後、スクールカウンセラーが学校で行う支援、あるいは心理専門職が学校と連携して行う支援について実践的に学ぶ。さらに、心理・福祉・医療の融合を踏まえた「総合的 school 臨床」のあり方についても考える。	
	産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	産業・労働分野における問題や心理職の活動内容を理解し実践できることを目的とする。授業形態は座学と小グループでのディスカッションを中心とする。事例を基にしたグループでの支援計画立案を毎回行うが、その他にロールプレイなどを取り入れ、教員と学生での双方向の意見を述べる。講義で扱う内容は、ストレスチェック、ハラスメント、リワークプログラム、自殺予防、キャリアカウンセリングなど、近年の産業分野の問題を中心に公認心理師や臨床心理士としての関わりや支援方法を扱う。また、医療や福祉等の関連領域との接続についてもとりあげる。	
	生涯発達心理学特論	発達心理学は、赤ちゃんから高齢者までの時間的変化に伴う心理発達に関する諸事象について明らかにし、発達の課題に対する支援についての知見と方法を提供するものである。本講義では、生涯発達に関する諸事象について、乳幼児期から老年期までの発達段階ごとに、特徴的な心理的課題と支援の在り方について、講義を中心とした授業を行う。本授業は、福祉健康科学の高度専門職・研究職となるにあたって求められる発達に関する深い理解と、発達支援を行う上での考え方や方法について学習を行うものである。	集中隔年
	教育心理学特論	教育心理学は、教育の過程の諸事象にみられる事実や法則性を明らかにし、教師の教育的な働きかけをより効果的にするための心理学的な知見と方法を提供する実践科学である。本講義では、教育の事象を、発達、学習・動機づけ、教育評価、学級集団、学校カウンセリング、および障害児(者)の理解と指導に分け、それぞれの理論と方法論だけでなく福祉健康科学の専門職としての教育指導のあり方を考察する。	集中隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 心理関連 連科目群	臨床心理学特論 I	<p>心理専門職として訓練過程の最初期に習得しておくべき、もっとも基礎的な事項を学ぶ。具体的には、心理専門職としての職務や基本的な資質、倫理、成長過程、心理支援の専門性と独自性などである。また、心理支援の実践においては是非とも意識してもらいたいテーマについても取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(27 武内 珠美/5回) 心理専門職の基本的資質、倫理、職業的アイデンティティ、訓練過程といった基礎的な事項に加え、個人の理解づくりと関係性づくりからケースマネジメント（事例の状況や特徴に応じて適切な支援を検討し、必要な支援を組み合わせるなどして、支援を運営していくこと）への展開といった支援の実践的課題についても詳述する。</p> <p>(7 渡邊 亘/5回) 心理支援に関する内外の歴史、心理専門家の業務や役割に関する専門性と独自性について詳述する。また、心理療法における議論の一つである伝統的な「抑圧モデル」と現代的な「解離モデル」の差異について述べ、心理支援における有用な視点を提示する。</p> <p>(60 溝口 剛/5回) 要支援者と専門家の心理的経験が相互に関与しながら組織されていくことは心理療法の中核的テーマである。このことについて、日常生活のレベルから支援を担当すること、また、スーパービジョンを受けることに至るまで、重層的に検討し、心理専門職としての眼差しを涵養する。</p>	オムニバス方式
	臨床心理学特論 II	<p>本授業では、臨床心理学特論 I の学びを発展・深化させることを目的として、各担当教員が専門とする領域・アプローチについての学びを展開する。これにより、多様な心理臨床活動に通底する心理専門職としてのあり方について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 飯田 法子/5回) 地域連携および家族関係の支援について講義する。</p> <p>(48 河野 伸子/5回) マインドフルネス療法の概要と実践について講義する。</p> <p>(63 池永 恵美/5回) 心理劇の概要と実践について講義する。</p>	オムニバス方式
	臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	<p>心理療法に関するもっとも基本的かつ普遍的な事柄として、心理療法の定義や歴史、また面接者のあり方（姿勢・応答・倫理等）や心理療法の進め方（面接開始から終結に至るプロセス）等を取り上げる。その上で、力動論的アプローチ（精神分析的な心理療法等）と認知行動論的アプローチ（認知行動療法）の理論と技法を、事例検討も含めて具体的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 渡邊 亘/7回) 1、2回では、心理療法全盤に通底する理念、姿勢、倫理および心理療法の歴史について概観する。3～7回では、力動論に基づく心理療法（精神分析的な心理療法等）の理論と技法について詳述する。</p> <p>(64 岩野 卓/8回) 8～12回では、認知行動論に基づく心理療法（行動療法、認知行動療法、認知療法等）の理論と技法について詳述する。また、13、14回では、その他のアプローチとして、解決志向アプローチやヘルピング・スキルについて紹介する。15回では、これまでの講義を振り返りつつ、心理療法の展望や将来像について考える。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 心理関連科目群	臨床心理面接特論Ⅱ	臨床心理面接特論Ⅰの発展・応用として、要支援者の特徴（年齢や発達段階等）、問題の性質（人格水準や深刻度、問題の現れ方等）、支援の場（医療、福祉、教育等の諸領域）に応じた心理療法の進め方を、事例検討を踏まえつつ具体的に学ぶ。 具体的には、児童期の心理療法の代表である遊戯療法、思春期・青年期の心理的特徴を踏まえた心理療法、比較的重篤な問題（人格障害や精神病態）に対する支持面接の進め方について取り上げる。あわせて、活動領域や機関の役割・特徴を踏まえた心理面接の進め方について考える。	
	臨床心理査定演習Ⅰ （心理アセスメントに関する理論と実践）	心理専門職の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法をふまえた上で、それらを心理に関する相談、助言、指導等へと応用するスキルの習得を目指す。特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている投影法については、他の性格検査とバッテリーを組んだ模擬事例を分析・解釈すること、また学生自らが実際に複数の性格検査を組み合わせて実施し、結果を整理し、所見を書く作業を重ねることを通して、高度に実践的なパーソナリティのアセスメント能力を養成する。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	心理専門職の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法をふまえた上で、それらを心理に関する相談、助言、指導等へと応用するスキルの習得を目指す。特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている知能・認知機能検査については、提示される模擬事例を分析・解釈すること、また学生自らが実際に知能・認知機能検査を実施し、結果を整理して所見を書く作業を重ねることを通して、被検者の発達のニーズの背景を総合的にアセスメントし、支援計画を提案していく高度に実践的な能力を養成する。	共同
	臨床心理基礎実習	臨床心理学的支援の基本である面接について、実習を通して基礎的理論、基礎的技法を学習することで、実践的能力を育てる。具体的には、クライアントの話を傾聴・理解し、応答するという基本的技法について学ぶとともに、ロールプレイによって体験的理解を深める（前期）。その上で、模擬面接と個別指導を実施し、より実践的に学ぶ。	共同
	臨床心理展開実習 （心理実践実習A）	学内実習施設（心理教育相談室）の一員となって、1年次に学ぶべき心理支援の基本事項を実地に学ぶ。具体的には、心理支援のシステムやルール、相談の運営、要支援者に対してその都度求められる対応等である。また、要支援者に対して心理検査や発達検査、心理面接の実施を指導者と共同で担当する。担当した事例については、綿密な個別指導（スーパービジョン）を繰り返し行うとともに、カンファレンスにおける事例発表でも指導を行う。	共同
	臨床心理応用実習A （心理実践実習B）	学外施設（教育領域：教育支援センター、福祉領域：児童相談所もしくは精神保健福祉センター）に出向き、継続的な実習を行う。具体的には、各施設独自の役割や取組を知るとともに、教育領域では不登校や発達障害等、福祉領域では虐待、ひきこもり、精神障害といった問題に対し、指導者の指導・監督のもと、要支援者への支援を担当する。これにより、領域・施設ならではの支援の実践やチーム支援の実際を身を以て学ぶ。	共同 集中



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目 心理関連 連科目群	臨床心理応用実習 B (心理実践実習 C)	学外施設（医療領域：精神科病院）に出向き、継続的な実習を行う。具体的には、各施設独自の役割や取組を知るとともに、様々な心理的疾患に関し、指導者の指導・監督のもと、要支援者への支援を担当する。これにより、領域・施設ならではの支援の実践やチーム支援の実際を身を以て学ぶ。	共同 集中
	臨床心理実習 A (心理実践実習 D)	1年次の基礎的な学びの上で、心理教育相談室における検査や心理面接の担当を本格化させる。特に、様々な年齢層や問題に対する支援を数多く担当することによって、要支援者の心理学的理解、要支援者の状況やニーズに応じた支援の組み立て、危機事象への対応、連携やチーム支援、見立てや検査結果を十分活かした支援の展開などの習熟を進め、心理支援の実践知を深化させる。	共同
	臨床心理実習 B	臨床心理実習 Aにおいて担当した支援事例について、毎回のセッションに関するスーパービジョン（短いスパンでの指導）、一定回数を重ねた上でのカンファレンスでの報告と指導（一定期間での指導）、事例検討会における1年の支援実践の省察（長いスパンでの指導）等、様々な形態の指導を組み合わせることで、心理支援のスキルの伸長をはかる。	共同
	臨床動作法特論	臨床動作法は、言語ではなく動作を媒介とする日本独自の非常にユニークな臨床心理学的援助技法である。本授業では、臨床動作法の理論や実践について講義・演習を行い、臨床動作法の実施に必要な知識を身につける。また基本的な援助者の態度や技術について学び、修得することも目的とする。授業では、実際の要支援者に対して臨床動作法を実践し、体験的に理解を深める。	共同
	保護者支援特論	少子化、核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化し、家庭や地域における子育て機能の低下、虐待、貧困などの社会問題が生じている。また、発達障害などの障害をもつ子どもの子育ては、困難を生じやすく、発達早期からライフステージ全体にわたる保護者支援が必要とされている。この授業では、保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、適切な支援および地域連携・多職種連携ができるよう、実践的な能力としてペアレント・プログラムを身につけることを目的とする。  (オムニバス方式／全15回)  (27 武内 珠美：7回) 主に保護者支援・子育て支援の現状及び各領域における心理的支援について解説する。  (48 河野 伸子：8回) 主にペアレント・プログラムの解説と模擬実施を行う。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究展開科目	福祉健康科学特別演習 I	<p>学位論文研究への着手を促すことを目的として、3コースが合同で研究紹介および構想発表を行う。その過程では、研究テーマや研究計画等に関する指導やディスカッションもあわせて行う。これにより、健康医科学・福祉社会科学・心理学に関する知識や視点をいかした幅広い研究指導を行う。</p> <p>(1 相澤 仁) 社会的養護、児童・家庭福祉領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 朝井 政治) 内部障害系理学療法学領域、特に呼吸器疾患を有する症例の理学療法の効果検証に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 穴井 博文) 臨床工医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 石崎 敏理) 薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 伊東 弘樹) 薬物動態領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 猪股 雅史) 消化器外科・小児外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 井原 健二) 小児科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 今井 浩光) 医療倫理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 上村 尚人) 臨床薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 小野 克重) 病態生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 片岡 晶志) 運動器領域、特に骨リモデリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(4 上白木 悦子) 保健医療や医療福祉におけるソーシャルワークの領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 河上 敬介) 基礎理学療法学領域、特に病態を持つ筋への理学療法効果とそのメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(14 河野 憲司) 歯科口腔外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 北野 敬明) 麻酔科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 久保田 敏昭) 眼科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 兒玉 雅明) 内科学領域、特に消化器内科学、消化器疾患病理に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 小林 隆志) 微生物学免疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 齊藤 功) 公衆衛生・疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 重光 修) 救急医学領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究展開科目		<p>(21 柴田 洋孝) 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 白石 憲男) 総合外科・地域連携学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 杉尾 賢二) 呼吸器・乳腺外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 鈴木 正志) 耳鼻咽喉科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 駄阿 勉) 診断病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 高橋 尚彦) 循環器内科・臨床検査診断学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 武内 (山本) 珠美) 臨床心理学、母子臨床、学校臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 谷川 雅人) 生物物理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 寺尾 岳) 精神神経医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(30 徳丸 治) 生理学領域、特に酸化ストレスの病態と抗酸化に関する研究指導を行う。</p> <p>(31 波多野 豊) 皮膚科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 花田 俊勝) 細胞生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 花田 礼子) 神経生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 濱田 文彦) 生体構造医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 平松 和史) 医療安全管理医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(36 藤木 稔) 脳神経外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(37 松浦 恵子) 人間生命医科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(38 三股 浩光) 腎泌尿器外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(39 宮崎 英士) 総合診療・総合内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(40 宮本 伸二) 心臓血管外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(41 村上 和成) 消化器内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(42 山岡 吉生) 環境・予防医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(㊦ 渡邊 亘) 臨床心理学、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目		<p>(44 阿南 雅也) 運動器理学療法学領域、特に身体運動のバイオメカニクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(8 飯田 法子) 臨床心理学、福祉臨床、子育て支援領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(46 伊波 英克) 微生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(47 加来 信広) 整形外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(48 河野 伸子) 臨床心理学、発達臨床、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(49 河野 康志) 産科婦人科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 川村 岳人) 地域福祉、社会的孤立への介入に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(51 下田 恵) 医化学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(52 紀 瑞成) 組織細胞化学領域、特にリンパ学に関する研究指導を行う。</p> <p>(53 中里 直樹) 社会心理学、心理的ウェルビーイング領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(54 泥谷 直樹) 分子病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(55 廣中 秀一) 腫瘍・血液内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 廣野 俊輔) 障害者福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(57 松尾 哲孝) マトリックス医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(58 松本 俊郎) 放射線医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(59 松本 由美) 社会保障に関する研究指導を行う。</p> <p>(60 溝口 剛) 臨床心理学、青年期の心理臨床、学生相談領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(61 三好 禎之) 生活保障、生活構造領域に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(62 村上 裕樹) 実験心理学、情動、神経生理心理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(63 池永 恵美) 臨床心理学、障害児者心理、臨床動作法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(64 岩野 卓) 臨床心理学、認知行動療法、産業臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(65 菅田 陽怜) 基礎理学療法学領域、特に神経科学を基盤とした理学療法の効果検証と開発に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目	福祉健康科学特別演習Ⅱ	<p>学位論文研究の深化・展開を助け、実りある成果へとつなげることを目的として、3コースが合同で中間発表および最終発表を行う。その過程では、研究計画の修正・拡充や研究成果の明確化に関する指導やディスカッションもあわせて行う。これにより、健康医科学・福祉社会科学・心理学に関する知識や知見をいかした幅広い研究指導を行う。</p> <p>(① 相澤 仁) 社会的養護、児童・家庭福祉領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(② 朝井 政治) 内部障害系理学療法学領域、特に呼吸器疾患を有する症例の理学療法の効果検証に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 穴井 博文) 臨床医工学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 石崎 敏理) 薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 伊東 弘樹) 薬物動態領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 猪股 雅史) 消化器外科・小児外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 井原 健二) 小児科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 今井 浩光) 医療倫理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 上村 尚人) 臨床薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 小野 克重) 病態生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(③ 片岡 晶志) 運動器領域、特に骨リモデリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(④ 上白木 悦子) 保健医療や医療福祉におけるソーシャルワークの領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑤ 河上 敬介) 基礎理学療法学領域、特に病態を持つ筋への理学療法効果とそのメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(14 河野 憲司) 歯科口腔外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 北野 敬明) 麻酔科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 久保田 敏昭) 眼科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑥ 兒玉 雅明) 内科学領域、特に消化器内科学、消化器疾患病理に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 小林 隆志) 微生物学免疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 斉藤 功) 公衆衛生・疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 重光 修) 救急医学領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目		<p>(21 柴田 洋孝) 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 白石 憲男) 総合外科・地域連携学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 杉尾 賢二) 呼吸器・乳癌外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 鈴木 正志) 耳鼻咽喉科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 駄阿 勉) 診断病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 高橋 尚彦) 循環器内科・臨床検査診断学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 武内 (山本) 珠美) 臨床心理学、母子臨床、学校臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 谷川 雅人) 生物物理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 寺尾 岳) 精神神経医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(30 徳丸 治) 生理学領域、特に酸化ストレスの病態と抗酸化に関する研究指導を行う。</p> <p>(31 波多野 豊) 皮膚科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 花田 俊勝) 細胞生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 花田 礼子) 神経生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 濱田 文彦) 生体構造医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 平松 和史) 医療安全管理医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(36 藤木 稔) 脳神経外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(37 松浦 恵子) 人間生命医科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(38 三股 浩光) 腎泌尿器外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(39 宮崎 英士) 総合診療・総合内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(40 宮本 伸二) 心臓血管外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(41 村上 和成) 消化器内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(42 山岡 吉生) 環境・予防医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(㊦ 渡邊 亘) 臨床心理学、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目		<p>(44 阿南 雅也) 運動器理学療法学領域、特に身体運動のバイオメカニクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(8 飯田 法子) 臨床心理学、福祉臨床、子育て支援領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(46 伊波 英克) 微生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(47 加来 信広) 整形外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(48 河野 伸子) 臨床心理学、発達臨床、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(49 河野 康志) 産科婦人科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 川村 岳人) 地域福祉、社会的孤立への介入に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(51 下田 恵) 医化学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(52 紀 瑞成) 組織細胞化学領域、特にリンパ学に関する研究指導を行う。</p> <p>(53 中里 直樹) 社会心理学、心理的ウェルビーイング領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(54 泥谷 直樹) 分子病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(55 廣中 秀一) 腫瘍・血液内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 廣野 俊輔) 障害者福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(57 松尾 哲孝) マトリックス医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(58 松本 俊郎) 放射線医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(59 松本 由美) 社会保障に関する研究指導を行う。</p> <p>(60 溝口 剛) 臨床心理学、青年期の心理臨床、学生相談領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(61 三好 禎之) 生活保障、生活構造領域に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(62 村上 裕樹) 実験心理学、情動、神経生理心理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(63 池永 恵美) 臨床心理学、障害児者心理、臨床動作法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(64 岩野 卓) 臨床心理学、認知行動療法、産業臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(65 菅田 陽怜) 基礎理学療法学領域、特に神経科学を基盤とした理学療法の効果検証と開発に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目	福祉健康科学特別研究 I	<p>所属するゼミを中心として、学位論文研究に取りかかる。具体的には、専門領域に関する研究倫理について指導を行うとともに、専門領域に関する先行研究の精読・分析・ディスカッションを重ね、研究領域の理解と研究課題の探究を進める。さらに、学位論文研究のテーマの検討と、研究計画の具体化・精緻化を進め、研究の構想を明確にする。その過程では、研究の内容に応じて、関連する他の教員による指導を行う。</p> <p>(1 相澤 仁) 社会的養護、児童・家庭福祉領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 朝井 政治) 内部障害系理学療法学領域、特に呼吸器疾患を有する症例の理学療法の効果検証に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 穴井 博文) 臨床医工学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 石崎 敏理) 薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 伊東 弘樹) 薬物動態領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 猪股 雅史) 消化器外科・小児外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 井原 健二) 小児科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 今井 浩光) 医療倫理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 上村 尚人) 臨床薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 小野 克重) 病態生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 片岡 晶志) 運動器領域、特に骨リモデリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(4 上白木 悦子) 保健医療や医療福祉におけるソーシャルワークの領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 河上 敬介) 基礎理学療法学領域、特に病態を持つ筋への理学療法効果とそのメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(14 河野 憲司) 歯科口腔外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 北野 敬明) 麻酔科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 久保田 敏昭) 眼科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 兒玉 雅明) 内科学領域、特に消化器内科学、消化器疾患病理に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 小林 隆志) 微生物学免疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 斉藤 功) 公衆衛生・疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 重光 修) 救急医学領域に関する研究指導を行う。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究展開科目		<p>(21 柴田 洋孝) 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 白石 憲男) 総合外科・地域連携学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 杉尾 賢二) 呼吸器・乳癌外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 鈴木 正志) 耳鼻咽喉科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 駄阿 勉) 診断病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 高橋 尚彦) 循環器内科・臨床検査診断学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 武内 (山本) 珠美) 臨床心理学、母子臨床、学校臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 谷川 雅人) 生物物理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 寺尾 岳) 精神神経医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(30 徳丸 治) 生理学領域、特に酸化ストレスの病態と抗酸化に関する研究指導を行う。</p> <p>(31 波多野 豊) 皮膚科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 花田 俊勝) 細胞生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 花田 礼子) 神経生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 濱田 文彦) 生体構造医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 平松 和史) 医療安全管理医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(36 藤木 稔) 脳神経外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(37 松浦 恵子) 人間生命医科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(38 三股 浩光) 腎泌尿器外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(39 宮崎 英士) 総合診療・総合内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(40 宮本 伸二) 心臓血管外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(41 村上 和成) 消化器内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(42 山岡 吉生) 環境・予防医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(㊦ 渡邊 亘) 臨床心理学、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目		<p>(44 阿南 雅也) 運動器理学療法学領域、特に身体運動のバイオメカニクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(8 飯田 法子) 臨床心理学、福祉臨床、子育て支援領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(46 伊波 英克) 微生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(47 加来 信広) 整形外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(48 河野 伸子) 臨床心理学、発達臨床、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(49 河野 康志) 産科婦人科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 川村 岳人) 地域福祉、社会的孤立への介入に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(51 下田 恵) 医化学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(52 紀 瑞成) 組織細胞化学領域、特にリンパ学に関する研究指導を行う。</p> <p>(53 中里 直樹) 社会心理学、心理的ウェルビーイング領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(54 泥谷 直樹) 分子病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(55 廣中 秀一) 腫瘍・血液内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 廣野 俊輔) 障害者福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(57 松尾 哲孝) マトリックス医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(58 松本 俊郎) 放射線医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(59 松本 由美) 社会保障に関する研究指導を行う。</p> <p>(60 溝口 剛) 臨床心理学、青年期の心理臨床、学生相談領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(61 三好 禎之) 生活保障、生活構造領域に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(62 村上 裕樹) 実験心理学、情動、神経生理心理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(63 池永 恵美) 臨床心理学、障害児者心理、臨床動作法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(64 岩野 卓) 臨床心理学、認知行動療法、産業臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(65 菅田 陽怜) 基礎理学療法学領域、特に神経科学を基盤とした理学療法の効果検証と開発に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目	福祉健康科学特別研究Ⅱ	<p>所属するゼミを中心として、学位論文研究を進展させる。具体的には、「福祉健康科学特別研究Ⅰ」での取組に基づき、適宜研究計画の深化・修正・追加を加えながら実験や調査を進めるとともに、得られたデータの分析や仮説の検証を行い、考察の深化や研究成果のまとめを進める。その過程では、研究の内容に応じて、関連する他の教員による指導を行う。また、専門領域に関する研究倫理に照らして確認・指導を行う。</p> <p>(1 相澤 仁) 社会的養護、児童・家庭福祉領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 朝井 政治) 内部障害系理学療法領域、特に呼吸器疾患を有する症例の理学療法の効果検証に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 穴井 博文) 臨床医工学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 石崎 敏理) 薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 伊東 弘樹) 薬物動態領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 猪股 雅史) 消化器外科・小児外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 井原 健二) 小児科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 今井 浩光) 医療倫理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 上村 尚人) 臨床薬理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 小野 克重) 病態生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 片岡 晶志) 運動器領域、特に骨リモデリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(4 上白木 悦子) 保健医療や医療福祉におけるソーシャルワークの領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 河上 敬介) 基礎理学療法学領域、特に病態を持つ筋への理学療法効果とそのメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(14 河野 憲司) 歯科口腔外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 北野 敬明) 麻酔科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 久保田 敏昭) 眼科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 兒玉 雅明) 内科学領域、特に消化器内科学、消化器疾患病理に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 小林 隆志) 微生物学免疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 斉藤 功) 公衆衛生・疫学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 重光 修) 救急医学領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究展開科目		<p>(21 柴田 洋孝) 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 白石 憲男) 総合外科・地域連携学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 杉尾 賢二) 呼吸器・乳癌外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 鈴木 正志) 耳鼻咽喉科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 駄阿 勉) 診断病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 高橋 尚彦) 循環器内科・臨床検査診断学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 武内 (山本) 珠美) 臨床心理学、母子臨床、学校臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 谷川 雅人) 生物物理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 寺尾 岳) 精神神経医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(30 徳丸 治) 生理学領域、特に酸化ストレスの病態と抗酸化に関する研究指導を行う。</p> <p>(31 波多野 豊) 皮膚科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 花田 俊勝) 細胞生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 花田 礼子) 神経生理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 濱田 文彦) 生体構造医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 平松 和史) 医療安全管理医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(36 藤木 稔) 脳神経外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(37 松浦 恵子) 人間生命医科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(38 三股 浩光) 腎泌尿器外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(39 宮崎 英士) 総合診療・総合内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(40 宮本 伸二) 心臓血管外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(41 村上 和成) 消化器内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(42 山岡 吉生) 環境・予防医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(㊦ 渡邊 亘) 臨床心理学、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目		<p>(44 阿南 雅也) 運動器理学療法学領域、特に身体運動のバイオメカニクスに関する研究指導を行う。</p> <p>(8 飯田 法子) 臨床心理学、福祉臨床、子育て支援領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(46 伊波 英克) 微生物学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(47 加来 信広) 整形外科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(48 河野 伸子) 臨床心理学、発達臨床、心理療法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(49 河野 康志) 産科婦人科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 川村 岳人) 地域福祉、社会的孤立への介入に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(51 下田 恵) 医化学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(52 紀 瑞成) 組織細胞化学領域、特にリンパ学に関する研究指導を行う。</p> <p>(53 中里 直樹) 社会心理学、心理的ウェルビーイング領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(54 泥谷 直樹) 分子病理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(55 廣中 秀一) 腫瘍・血液内科学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 廣野 俊輔) 障害者福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(57 松尾 哲孝) マトリックス医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(58 松本 俊郎) 放射線医学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(59 松本 由美) 社会保障に関する研究指導を行う。</p> <p>(60 溝口 剛) 臨床心理学、青年期の心理臨床、学生相談領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(61 三好 禎之) 生活保障、生活構造領域に関する研究指導補助を行う。</p> <p>(62 村上 裕樹) 実験心理学、情動、神経生理心理学領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(63 池永 恵美) 臨床心理学、障害児者心理、臨床動作法領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(64 岩野 卓) 臨床心理学、認知行動療法、産業臨床領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(65 菅田 陽怜) 基礎理学療法学領域、特に神経科学を基盤とした理学療法の効果検証と開発に関する研究指導を行う。</p>	